

平成20年度

# 豊田市男女共同参画に関する意識調査報告書

概要版



豊田市

# 男女共同参画社会とは



誰もが自分らしく、個性と能力を発揮できる社会になっているでしょうか？

男女共同参画社会とは、女性と男性が社会を構成する対等なメンバーとして認め合い、仕事、家庭、地域などあらゆる分野に参画し、喜びも責任も、ともに分かち合う社会です。

豊田市では、男女共同参画社会の実現を目指して、平成12年に「とよた男女共同参画プラン(クローバープラン)」を策定し、各種施策の取組を積極的に進めてきました。今回、プランの計画期間(平成21年度)の終了が近いことを踏まえ、平成10年、15年に実施した男女共同参画に関する意識調査から市民の皆さんの意識の変化や男女の社会参画の実態、施策に対する評価などを比較・検証し、新プラン策定の基礎資料とするため、改めて意識調査を実施しました。

**配布対象** 20歳以上の男女各1,500人の市民を無作為抽出

**回収数** 女性888人(回収率59.2%)、男性645人(回収率43.0%)

## 豊田市における男女平等意識の変化

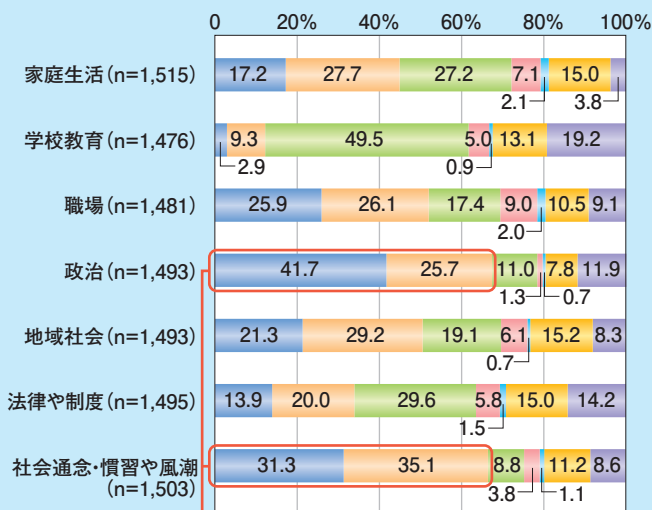


男女が対等なパートナーとして認め合う社会へ、緩やかですが変化してきています。

「男女平等意識」をみると、いずれの分野においても、男性が優遇されていると感じている人の割合が、女性が優遇されていると感じている人の割合を上回っています。特に、「政治」や「社会通念・慣習や風潮」では、約7割の人が、男性が優遇されていると感じています。

過去の調査と比較すると、男女が平等であると感じている人は、それぞれの分野でおおむね増加傾向にあります。クローバープラン(後期)で掲げた目標値には達していません。豊田市においては、10年間で緩やかに、男女が対等なパートナーとして扱われる社会に変化してきてはいますが、さらなる意識の改善に向けた啓発や取組が必要です。

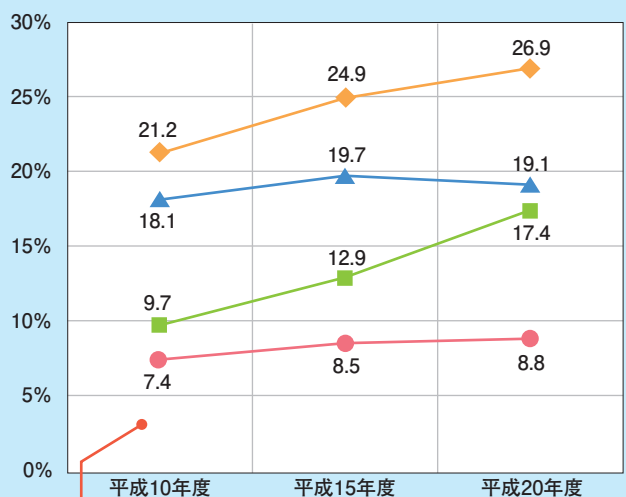
■男女平等意識



依然として、約7割の人が、男性が優遇されていると感じている分野があります。

■ 男性の方が優遇されている    ■ 男性の方がやや優遇されている  
■ 平等である    ■ 女性の方がやや優遇されている  
■ 女性の方が優遇されている    ■ どちらともいえない  
■ わからない

■過去の調査との比較(「平等である」の割合)



少しずつ、男女が平等に扱われる社会に変化していますがさらなる改善が必要です。

◆ 家庭生活    ■ 職場  
▲ 地域社会    ● 社会通念・慣習や風潮

## 家庭における男女の役割分担

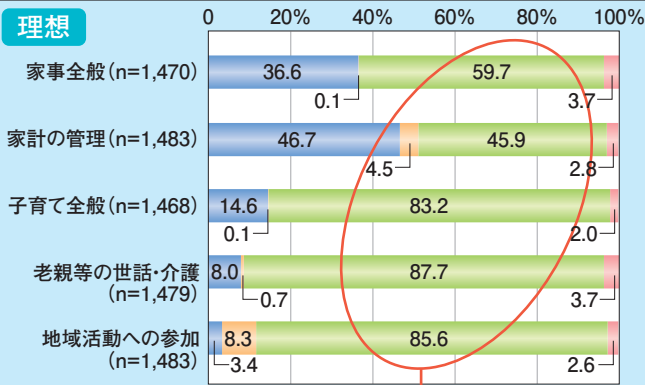


多くの方が家庭のことは夫婦共同で行いたいと考えていますが、  
現実には、家事の大半は妻がしています。

育児や地域活動への参加、介護などを夫婦共同で行うことを理想とする家庭が多い一方で、現実には、家事や家計の大半は妻が行っています。

### ■家庭における夫婦の役割分担

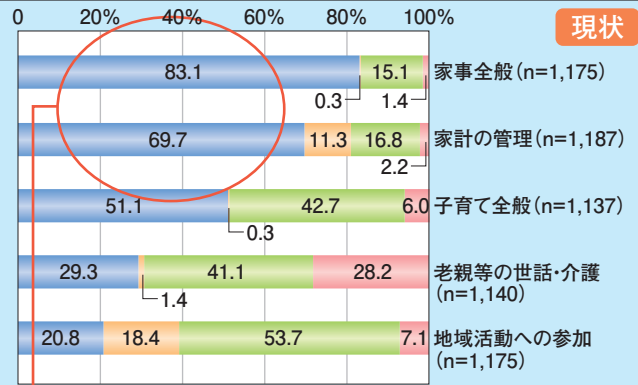
理想



多くの方が、家庭の仕事を共同で行いたいと考えています。

■ 主に妻が行うのがよい ■ 主に夫が行うのがよい  
■ 共同で行うのがよい ■ その他

現状



家事のほとんどは妻が行っています。

■ 主に妻が行う ■ 主に夫が行う  
■ 共同で行う ■ その他

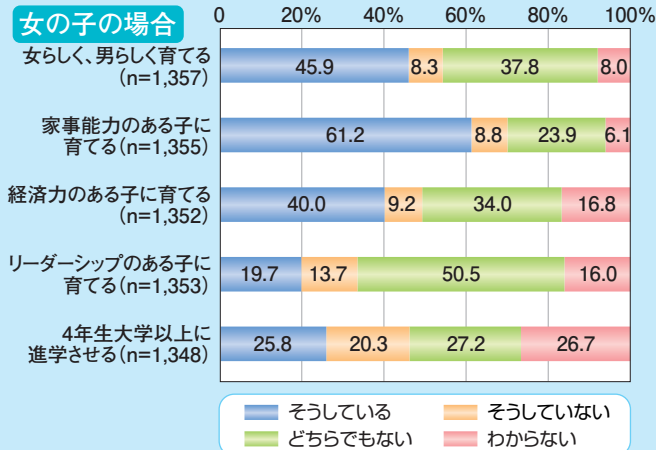


子どもの頃から、男女で期待される役割が異なっています。

女の子には家事能力が、男の子にはリーダーシップや経済力、学歴などが期待されています。また、ジェンダー意識にとらわれている人の方が、とらわれていない人よりも、女らしく、男らしく育てることを重視しています。家事能力もリーダーシップも、あるいは経済力も、男女問わず自立して生きるために必要な要素です。子どもの性別によって接し方を変えることは、子どものうちからジェンダー意識を育てることにもつながります。

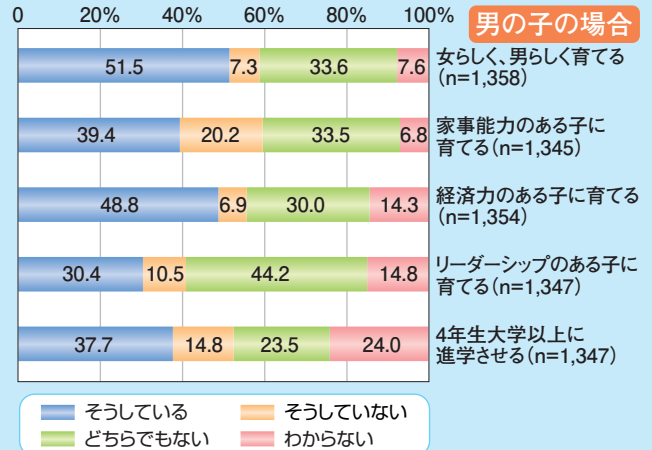
### ■子どもへの期待、育て方

女の子の場合



■ そうしている ■ そうしていない  
■ どちらでもない ■ わからない

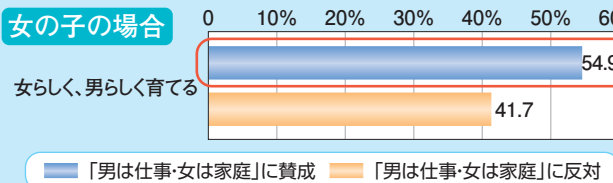
男の子の場合



■ そうしている ■ そうしていない  
■ どちらでもない ■ わからない

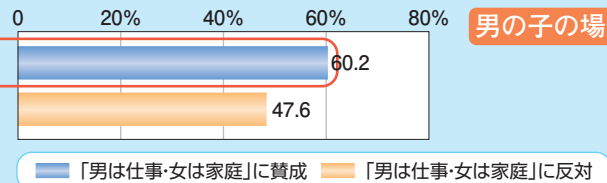
### ■ジェンダー意識が子どもの育て方に及ぼす影響

女の子の場合



■ 「男は仕事・女は家庭」に賛成 ■ 「男は仕事・女は家庭」に反対

男の子の場合



■ 「男は仕事・女は家庭」に賛成 ■ 「男は仕事・女は家庭」に反対

ジェンダー意識にとらわれている人の方が、女らしく、男らしく育てることを重視しています。

注) ジェンダーとは、生物学的な性別ではなく、「女らしさ、男らしさ」など文化的・社会的につくられた性差をさします。

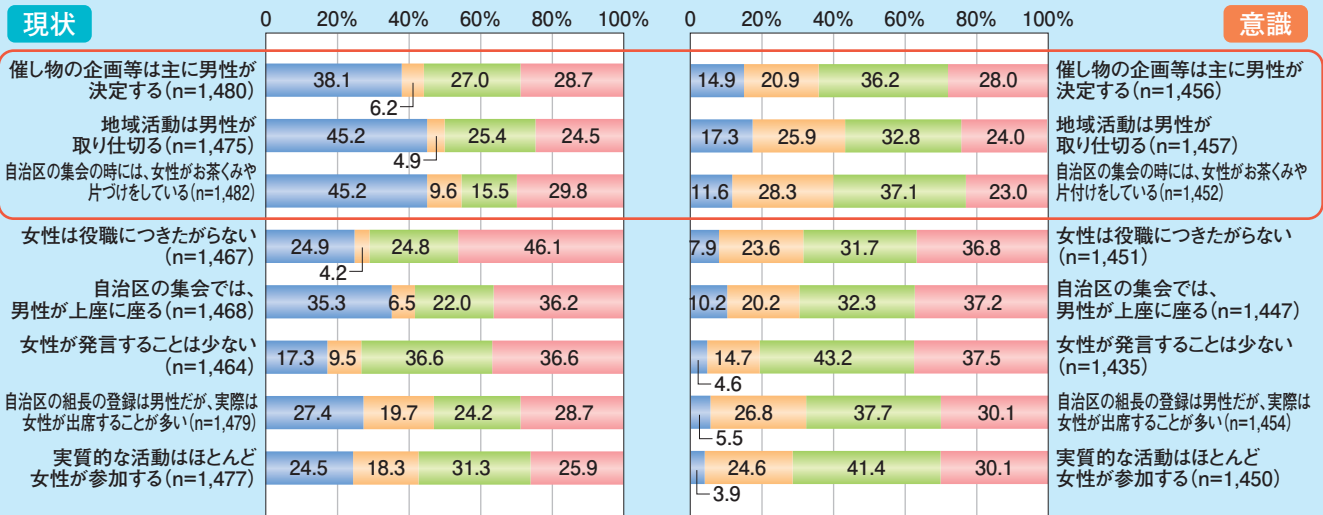
## 地域社会における男女の役割分担



男性が企画や仕切りを行い、  
女性がお茶くみや片付けを行うという分担がなされています。

地域活動においては、男性が企画や仕切りを行い、女性がお茶くみや片づけなどの雑事を行うなどといった従来からの慣習による性別の役割分担がいまだに存在しており、それについて約3~4割の人が改善すべき、約2~3割の人が仕方ないと考えています。

### ■地域社会における男女の役割分担



男性=企画、女性=片づけという役割分担がなされており、改善が求められています。

■ そうしている ■ そうしていない ■ どちらでもない ■ わからない

■ 当然だと思う ■ 仕方ない ■ 改善すべき ■ わからない

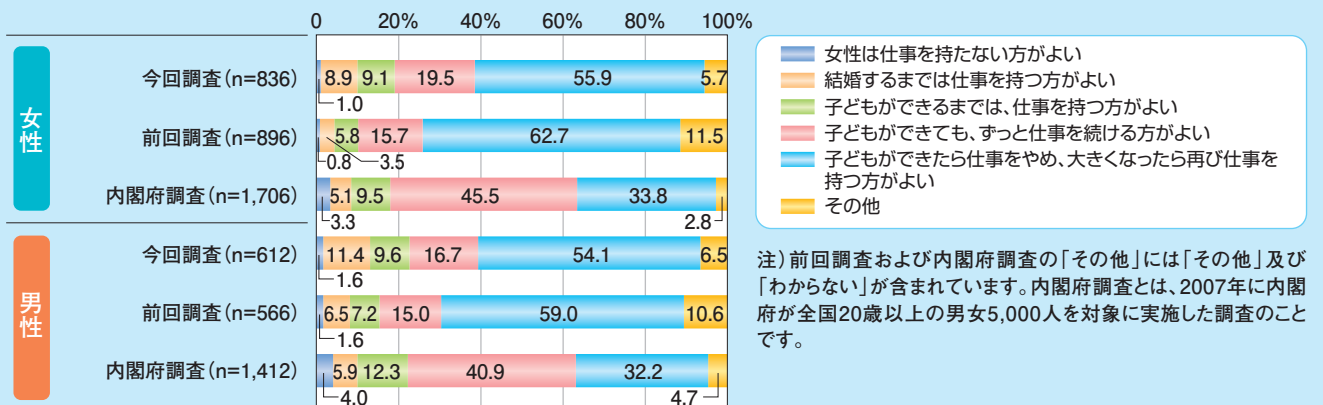
## 職場における男女の役割分担



女性は結婚や出産を機に仕事を離れるほうがよいと考えている人が、  
全国に比べて多くなっています。

男女ともに過半数の人が、「子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」と考えています。内閣府調査では男性の約4割、女性の約5割が回答していた、「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」と考えている人は、前回調査と比較すると増えてはいますが、それでも約2割と全国に比べて大幅に低くなっています。このように、豊田市では、女性は結婚や出産を機に仕事を離れるほうがよいと考えている人が、全国に比べて多くなっています。

### ■女性が仕事を持つことについての考え



■ 女性は仕事を持たない方がよい  
■ 結婚するまでは仕事を持つ方がよい  
■ 子どもができるまでは、仕事を持つ方がよい  
■ 子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい  
■ 子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つ方がよい  
■ その他

注) 前回調査および内閣府調査の「その他」には「その他」及び「わからない」が含まれています。内閣府調査とは、2007年に内閣府が全国20歳以上の男女5,000人を対象に実施した調査のことです。

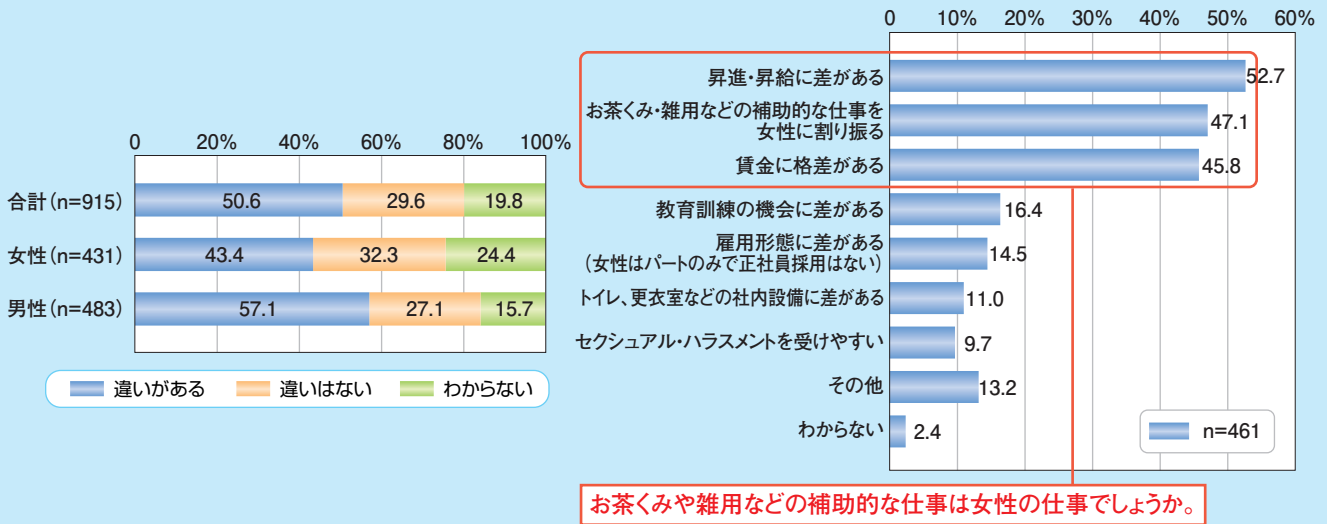




過半数の人が、仕事の内容や待遇などにおいて男女に差があると感じています。

過半数の人が、職場において男女の違いがあると感じています。違いがあると感じている人のうち過半数の人が、女性には補助的な仕事が割り振られ、昇進・昇級、賃金に差が生じていると感じています。

### ■職場における男女の平等意識



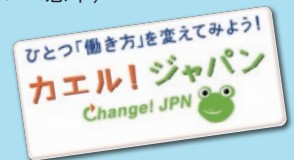
## 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の実現状況

### 仕事と生活の調和が実現した社会とは…

「国民一人ひとりが、やりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中興期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現出来る社会」です。(ワーク・ライフ・バランス憲章)

誰もが、仕事や子育て、介護、地域活動など様々な活動を自分の希望するバランスで展開できる社会の推進は、男女共同参画社会を実現させる上で重要な取組です。

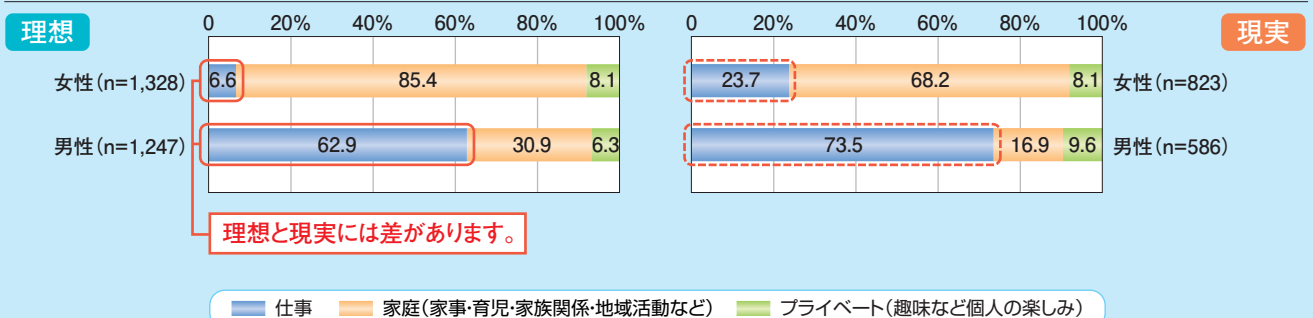
国では、企業、労働者、国・地方公共団体の各主体だけでなく、国民全員の取組への気運を醸成するため、2008年より「カエル! ジャパン」キャンペーンを行っています。



現実には、理想よりも「仕事」が優先されています。

仕事・家庭・プライベートのうち最も優先したいものについて、女性は「家庭」を、男性は「仕事」を優先したい人の割合が最も高くなっています。現実でも、女性は「家庭」を、男性は「仕事」を優先している人の割合が最も高くなっていますが、比率をみると男女ともに「仕事」を優先している人の割合が、理想よりも高くなっています。

### ■ワーク・ライフ・バランスの実現状況



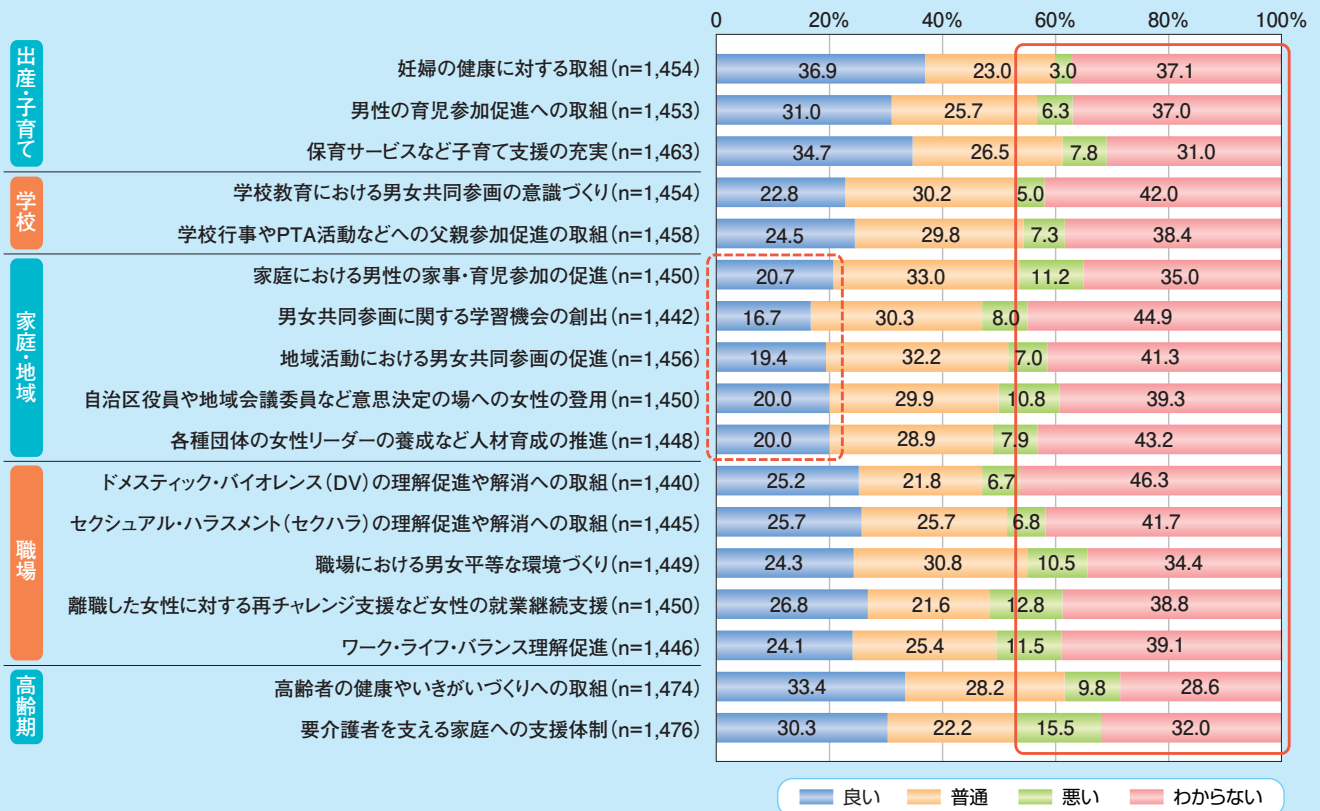
# 豊田市の取組に対する評価



あなたは、豊田市の男女共同参画に関する取組を知っていますか？

豊田市の取組について知らない人が多く、取組自体の認知についても検討が必要です。項目別にみると、「出産・子育て」、「高齢期」における取組の評価が比較的高い一方で、「家庭・地域」については全般的に評価が低い状況にあり、重点的な取組が必要になると考えられます。

## ■豊田市の取組に対する評価



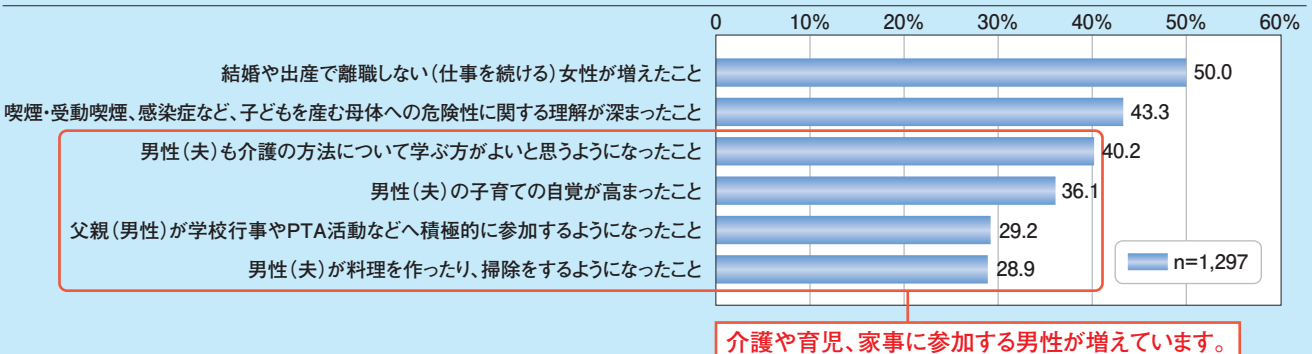
# 男女共同参画に関する理解が深まったこと



女性が仕事を続けることの理解や、男性の介護・育児・家事参加への意識が高まっています。

過半数の人が、これまでの豊田市の取組により、女性が仕事を続けることに対する理解が深まったと感じています。また、男性の介護や育児、家事参加への意識も高まっています。

## ■これまでの豊田市の取組によって男女共同参画に関する理解が深まったこと



# 男女共同参画社会の実現に向けて重要だと思うこと

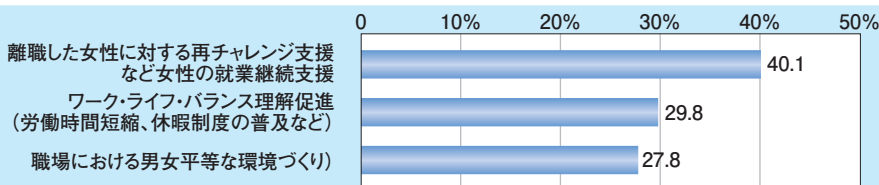
豊田市では、今後も、皆さんが重要と考える施策を優先的に進めていくことによって、男女共同参画社会の実現を目指します。

## 多様な働き方が選択可能な、男女が等しく扱われる職場環境

子育てや介護などの理由により、働きたくても働けない女性や、仕事などの理由により、育児に参加できない男性がいます。

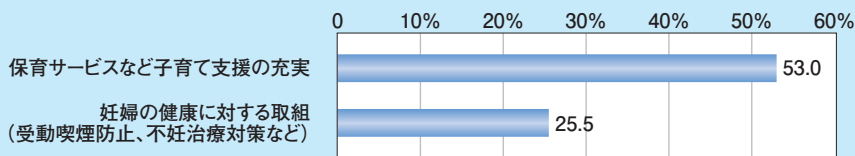
また、職場では、お茶くみなどの補助的な仕事が女性だけに割り振られている場合があります。男性、女性が対等なパートナーとして、働けるよう、企業に呼びかけていきます。

### 男女共同参画社会の実現において重要と思うもの



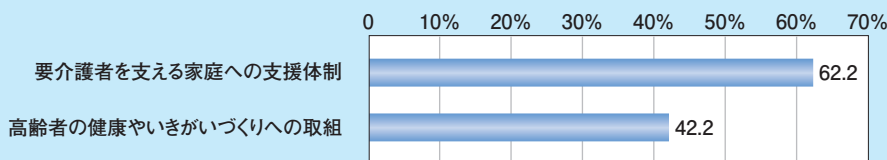
## 安全に子どもを生み、育てられる環境

男女共同参画社会実現のために、過半数の人が、「保育サービスなど子育て支援の充実」が必要と考えています。少子化が進む中、女性が安心・安全に出産し、子育てできるような環境づくりを推進していきます。



## 介護を支え、高齢者が生き生きと生活できる環境

6割の人が、男女共同参画社会の実現には「要介護者を支える家庭への支援体制」が重要と感じています。超高齢化社会の到来を控える中、高齢者の生活を支える人や高齢者自身が生き生きと生活できるよう、支援体制を充実させていきます。



## 豊田市には、男女共同参画推進の拠点施設「キラッ☆とよた」があります。

### 女性のための電話相談室クローバーコール(専用電話:33-9680)

悩みや問題を抱えた女性のための無料電話相談で、専門の女性相談員が対応しています。相談日時は、火曜、木曜、金曜、土曜日の10時～16時、水曜日の10～13時、16時～19時です。

### 男性のための電話相談室メンズコール☆とよた(専用電話:37-0034)

悩みや問題を抱えた男性のための無料電話相談で、専門の男性相談員が対応しています。相談日時は、毎月第2・第4金曜日の18時～20時です。

### ミニッツ10 ジェンダー講座(エフエムとよたラジオラビート(78.6MHz)にて放送)

家庭、職場、地域での様々な会話の中のにぞく「ジェンダー意識」をドラマ仕立てにし、分かりやすく解説しています。放送時間は、毎週火曜日の午前7時40分からと、土曜日の午前8時45分からの10分間です。

### 情報誌「クローバー」の発行

男女共同参画に関する情報や、キラッ☆とよた主催講座の案内などを掲載した情報誌を発行しています。

### あなたとわたしのフォーラム

市民の皆さんに男女共同参画について広く理解していただくために、男女共同参画に関する講演会を開催しています。

「キラッ☆とよた」で  
行っている  
事業の一部を  
ご紹介します。

# 男女共同参画社会の実現に向けて一人ひとりができること

男女がお互いに対等なパートナーとして認め合い、責任や喜びを分かち合って、  
家庭・地域・職場などを共に築きあげていく社会が男女共同参画社会です。

## 家庭

女性は家事を優先すべきと考えていませんか。  
お互いを思いやり、協力ができないときには感謝の気持ちを伝えて  
みてはいかががでしょうか。

家事や育児、介護には、大変時間がかかります。全てを一人で行おうとすると、自分の個性や能力を活かす機会を十分に持てません。一度離職した女性に対する就業継続支援を望む声の大きい中、女性だけに家事や育児、介護の負担が偏ってしまっている状況は、男女が対等なパートナーとして家庭を築いているとは言えません。

自分がやらなければ、あるいは、妻が当然やってくれるものだという考えを見つめなおし、お互いを思いやり、協力ができないときには感謝の気持ちを伝えてみてはいかががでしょうか。

## 地域

慣習にとらわれていませんか。  
地域活動にも女性のパワーが必要です。

なぜ地域活動は男性が仕切るのでしょうか。なぜ女性はお茶くみや片付けなどの裏方の役回りなのでしょうか。

全国には、女性のパワーで活性化されている地域がたくさんあります。従来からのしきたりや慣習にとらわれず、地域づくりに女性の力を活かしてみてはいかががでしょうか。

## 職場

能力ではなく、性別により役割を分担していませんか。  
男女共に、個人の望ましいワーク・ライフ・バランスを実現できる  
職場環境を目指しましょう。

男女が対等なパートナーとして、共に活躍する職場を築いていくためには、性別により役割を分担するのではなく、個人の個性や能力により業務を分担することが大切です。

誰もが、仕事や子育て、介護、地域活動など様々な活動を自分の希望するバランスで展開出来る社会が求められている中、個人が望ましいワーク・ライフ・バランスを実現できるよう、男女ともに、仕事をしながらも家庭生活のための時間や地域活動に参加する時間などを気兼ねなく確保できる職場を目指しましょう。

※各グラフの合計値は、四捨五入により100%にならない可能性があります。